

# 福王寺だより

唸るような暑さが懐かしく感じるほど、あつという間に肌寒い日がやってまいりました。諸行無常、一時ひとときを大切に生きて生きたいと感じます。

「楽園はどこにあるのか？」

「中島らも」さんのエッセイの中で、こんなタイトルを使ったものがありました。

簡単にいうと私達は「少なくともここは楽園ではない」という確信があり、あるとすれば「**ここではないどこか**」にあるはずで、それを求めずにいられないということです。あるかもわからない「楽園」を求める事は、「幸せ」を求める事に似ていて、生きるとは、そういうものなのかも知れま

せん。

ところで、ここでは「楽園」というもののあり方には四つの可能性があると言っています。

ひとつはいま述べている、どこか違う場所です。私達のいるところの「空間軸」の中に存在する楽園である。同時代の、しかし「**ここではないどこか**」に存在するはずの地上の楽園。

そして二つ目には「**時間軸上のどこか**」に存在する楽園です。昔の神話の中にはとても豊かだった話、幸せに暮らしていた話、昔は無垢な人たちの楽園が存在していたという話。「あの頃は良かった」と思うのも時間の軸さかのぼったところに存在する楽園なのかもしれません。また、逆に遠い未来にきつと楽園のような世界が来るという事も考えられます。

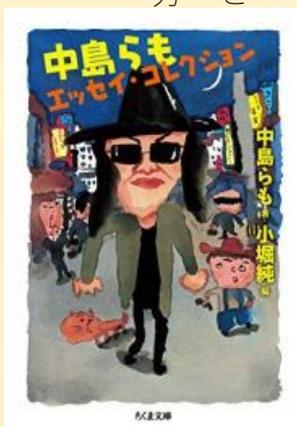
ただし未来に関しては悲観的な考えが

強く、世界も人間もどんどん悪くなっていくというように考えがちです。いずれにしても、ここには「**今ではないいつか**」に楽園を求める考え方があります。

三つ目は我々が属するところの時空とは異なる次元の中にこそ楽園がある、「別世界」という考え方です。もちろん楽園の対極には地獄というものも想定されますが、極楽浄土のように、「**この世ではないどこか**」、次元のむこう側に楽園が存在するという考え方です。

四つ目の考え方は今までの三つとは、真逆、一八〇度考え方が変わり、

つまり「楽園は存在する。いま、**ここがすなわち楽園なのだ**。我々に必要なのは、それに気づくことだ」という考え方です。



日々の生活の中で、「幸せ」を感じる時間はどのくらいありますか？ 1日、1回はありますか？ 幸せを感じる時間が多ければ多いほど、楽しい毎日を過ごせそうです。例えば、ご飯がおいしいと感じる幸せ、一緒に笑えた幸せ、太陽が気持ち良いなと思う幸せ、小さな幸せを数えていけば、実はここは楽園なのかもしれないと思うかもしれません。

また「幸せ」という価値観は自分の思い込みで生まれます。実に人それぞれですし、苦労があるからこそ幸せを感じる事もあるでしょう。どんなに恵まれて幸せそうに見える人でも、それは本人が幸せだと思っていなければ、その人は幸せではないということがあるでしょう。幸せとは、お金に不自由しないことだ、容姿に恵まれていることだ、などという定義は、私達が作りあげた価値観です。その価値観に振り回され、

今が幸せだと感じられないこともあるかもしれません。

しかし本当は、自分に都合のいい出来事も、悪い出来事も、すべての出来事は仏様からの、プレゼントなのではないでしょうか。同じ出来事を経験しても、感じ方は人それぞれです。そうであれば、与えられている多くの幸せに気づけるよう、幸せセンサーの感度を上げて、楽しいことをたくさんキャッチすることこそが楽園へ向かう道なのかもしれません。

我が弘法大師空海も「それ仏法遙かに非ず、心中にして即ち近し」といい、「仏へ至る道は遙か遠いところにあるものではない、自分自身の心の中にこそあるのだ」と申されています。

こんなお手紙も皆様にとつて、小さな幸せになれる一助になると素敵だと思えます。



## 行事のご案内

**十一月六日 午前九時**

**第三回下座行**

第三回目の下座行です。先祖様に供養すると同時に心を磨きましよう。境内が綺麗になっていく様は、気持ち良いですよ。

**お掃除です。お手伝いおねがいます。**

**十一月十七日**

**午前十時 報讃会**

今年最後の大法会です。網走の管内のご寺院様、布教師様をお招きし、一年の感謝を込めて祈りを捧げます。

**一緒にお参りしましょう！**

百周年に向けてご寄進ご記帳、本当にありがとうございます。お寺がより良い場所になるよう尽力していきたいと思えます。随時進展ありましたらご連絡致します